

単元名

ふるさと郷原のためにできること
～SDGs11 住み続けられるまちづくりを～

令和3年11月5日（金）

第6学年1組

男子18名 女子15名 計33名

1 単元設定の理由

探究課題について

- 郷原町は呉市の北東部に位置し、呉の市街地から離れており、北は東広島市に接している。三方を山で囲まれており、町の中央には二級河川である黒瀬川が流れており、川を囲むように田園風景が広がっている。さらに芝桜や、秋桜などの花が美しく咲き、田には稲が実り四季を感じられるなど豊かな自然環境に恵まれた地域である。昭和60年代の呉新世紀の丘開発構想により都市開発が始まり、郷原地区も工業団地や住宅団地、東広島・呉自動車道の開発などが進められた。住宅団地の分譲により人口が増加し、一時は5,000人近くにもなった。しかし、近年は人口も減少傾向にある。「郷原地区まちづくり計画」によると、担い手の高齢化や減少、田畑の管理や技術、文化の継承などが課題としてあげられている。

そんな中、特色ある地域資源を生かし、にんにく作りやシバザクラの栽培を通して活力ある地域づくりに取り組む地域の方がおられる。地域の方は、子供たちに「自分の生まれ育った郷原の町を誇りに思っている」という思いをもっておられる。

最高学年になり、受験を控える児童もいる中、地域の方の思いや願いに気付かせることで、地元である郷原町に愛着をもち、活力ある未来について考えさせていきたい。また、「SDGs11 住み続けられるまちづくりを」を意識させ、地域の方と関わりながらまちづくりに参画していくことで、本校の研究主題である「気付き考え行動する郷原っ子の育成～関わり、つながる教育活動を通して～」に迫っていききたい。

児童について

- 本学級の児童は、8割の児童が新興住宅地に住んでいる。このような状況下にあるが「今住んでいる地域の行事に参加している」という設問において、80.6%の児童が肯定的回答であり、意欲的に地域の行事に参加している児童が多くいるようである。しかし、一方で、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」という設問においては、肯定的回答が62.9%にとどまっており、主体的に地域に関わろうとする意識が低いことが予想される。
- また、「自分の思っていることや感じていることをきちんとことばで表すことができる」（肯定的回答59.6%）「授業で自分の考えを発表するときは、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」（肯定的回答58.1%）という設問において、肯定的回答が60%に満たなかった。このことから、自分の考えを表現することに抵抗がある児童が多いことが予想される。
- 1学期の総合的な学習の時間では、「町づくり」や「地域活性化」をキーワードとして、探究的な学習を行ってきた。「郷原のために何ができるか」を考えた際には、「ごみ拾いや掃除がしたい」「シバザクラロードの掃除がしたい」などの意見が出ており、地域の花火大会と関連させながら、清掃活動などを行ってきた。その際、団地に多くのごみがあることに気付いてきている。また、国語科「町の幸福論」の学習において、町の課題について調べた際、平成25年をピークにして徐々に人口が減少傾向にあることに気付くことができた。これらの町の課題を踏まえた未来の在り方について、他の町を参考にしながら考え、プレゼンテーションを行ってきた。

2 研究主題に迫るための工夫

指導に当たっては、児童の振り返りを質的に高めるために、次の3点の工夫を行う。

- ① 地域の方にインタビューしたことをグルーピングし、比較することで、共通の思いに気付かせる。
- ② 振り返りシートに評価項目を記載し、振り返りを書く際の視点になるようにする。
- ③ 児童の思考が深まるような発問を設定する。

3 単元の目標

- 郷原町の持続可能なまちづくりに参画することで、郷原町を支えている方々の取組や思いに気付き、自分にできるまちづくりは何かを考え、郷原町に対する愛着をもち主体的に貢献したいという思いをもつことができるようにする。

4 本単元で育てようとする資質・能力

(1) 知識及び技能（分かる・できる）

- まちづくりのために尽力されている方の存在やその思いに気付き、地域の人と協働してまちづくりに参画することが持続可能なまちづくりにつながることを理解している。

(2) 思考力・判断力・表現力等（考え・決める力、伝える力）

- 多くの情報の中から自分に必要な情報を取捨・選択したり、複数の情報について思考ツールを活用したりして、筋道を立てて解決に向けて考えることができる。
- 伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現することができる。

(3) 学びに向かう力・人間性等（進んでやる力、やり抜く力）

- 課題解決に向けて自分たちが決めたことなどに、計画的・協働的に取り組むことができる。
- 活動に意欲をもち、自分たちが計画したことを実行するという目標に向かって、最後まで粘り強く取り組むことができる。
- 郷原町に対する愛着を深め、地域に貢献したいという思いをもつことができる。

5 本単元の評価規準

育てようとする資質・能力		評価規準
(1) 知識・技能	① 分かる・できる	ア 花火大会やシバザクラロードの管理など、地域のために取り組んでいる人々や組織の存在、その思いに気付いている。 イ 地域の人と協働してまちづくりに参画することが、持続可能なまちづくりにつながることを理解している。
(2) 思考・判断・表現	① 考え・決める力	ア 必要な情報を取捨・選択したり、複数の情報について思考ツールを活用したりして、筋道を立てて考えている。
	② 伝える力	ア 集めた情報を整理して、自分の考えをまとめ、適切な方法で伝えている。 イ 集めた情報をもとに、郷原町の未来について考えを広げ、目指す町の姿について適切な方法で、地域の方にプレゼンテーションしている。
(3) 主体的に学習に取り組む態度	① 進んでやる力	ア 「ふるさと郷原のためにできること」を考え、実行に向けて計画的・協働的に取り組もうとしている。
	② やり抜く力	ア 活動に意欲をもち、「ふるさと郷原のためにできること」に向けて、自分たちが計画したことに目標を決めて粘り強く取り組み、活動を振り返ろうとしている。

6 単元イメージ

本質的な問い わたしたちは、地域にどのように関わり、どう生きるのか。

単元名 ふるさと郷原のためにできること～SDGs11 住み続けられるまちづくりを～

単元を貫く問い 郷原町のために、自分たちに何ができるだろう。

【 探究課題 まちづくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織 】

【第3次】（20時間）

課題 郷原町の活性化に向けて、これから自分たちにできることを考え、その思いを広めよう。

個別の問い

- ・ これまでやったことは持続的だったのか。
- ・ 地域の方々の共通の思いから、地域活性化のために自分たちにできることは何だろうか。

地域の方

（しかけ）

にんにく栽培、シバザクラロードの管理にける思いを整理し、ふるさと郷原をよりよくしたいという共通の思いに気付かせる。

【第2次】（10時間）

課題 地域の方と関わることを通して、地域活性化に関わっておられる方の思いを知ろう。

個別の問い

- ・ いつから、なぜ、どのように、どのような思いでシバザクラロードを管理したり、にんにく栽培をしたりされているのだろう。

にんにく栽培をされている方

シバザクラロードの整備、にんにくの植え付け

（しかけ）

「にんにく栽培を手伝ってほしい」というビデオレターやにんにく栽培のyoutubeを見て、空いている田んぼを使ってにんにくづくりをしている方がいることを知る。

国語科「町の幸福論」

【第1次】（13時間）

課題 地域活性化に関わっている方々の取組から自分たちができることを考えよう。

個別の問い

- ・ どれくらいの方が関わって花火大会を開催しているのだろうか。
- ・ なぜ、花火大会を開催するのだろうか。
- ・ 郷原の課題を把握し、未来像をえがき自分たちができることを考えよう。

郷原支所の方

シバザクラロードの管理に携わる方

（しかけ）

花火大会に向けて、自分たちのためにたくさんの方が関わって開催してくれていることに気付かせる。

7 指導計画 (全43時間)

【単元を貫く問い】 郷原町のために、自分たちに何ができるだろう。

＜本質的な問い＞ わたしたちは、地域にどのように関わり、どう生きるのか。					
次	主な学習活動	時数	探究の過程	評価規準（評価方法）	教科等との関連
一 次	課題の設定 地域活性化に関わっている方々の取組から自分たちができることを考えよう				
	○ 地域のためにできることを考え、できそうなものを整理する。	1	課題の設定		
	○ 8月に花火大会が開催されること、それに向けて掃除をしてほしいことを郷原支所の方の動画を見て知り、掃除の計画を立てる。 ・ 川沿いで見る人が多そうだから川沿いを掃除しよう。 ・ ゴミもあるかもしれないし、草も多いから草を抜く道具も持っていこう。	1	情報の収集 整理・分析	(2)②ア 郷原の町の清掃に向けて、集めた情報を整理して、自分の考えを伝えている。 (発言の分析)	国語科 「友達の意見を聞いて考えよう」
	○ 掃除を実行する。	2	まとめ・表現	(1)①ア 花火大会に向けて、地域のために取り組んでいる人々や組織の存在、その思いに気付いている。 (発言の分析)	特別活動 「最高学年として」
	○ ゴミが少なかった理由から、次の計画を立てる。 ・ 人通りが少ないから、ゴミが少なかったのではないか。 ・ 自分たちの通学路や住宅地の掃除をしたらいいいのではないか。	1	課題の設定 整理・分析	(3)①ア 郷原の町の清掃活動に計画的・協働的に取り組もうとしている。(行動観察)	
	○ 掃除をする。	2	まとめ・表現 情報収集	(2)①ア 郷原町の清掃活動に向けて必要な情報を取捨・選択し、筋道を立てて計画を立てることができる。(行動の観察)	
	○ 郷原支所の方から花火大会について詳しく聞き、たくさんの人が関わっていることや、どのような計画で大会を開いたのかを知る。 ・ 郷原を元気にするためにたくさんの人が関わっているんだな。 ・ 地域活性化のために行っているんだ。 ・ 地域活性化ってどういうこと？	1	情報収集	(3)①ア 郷原の町の清掃活動に計画的・協働的に取り組もうとしている。(行動観察)	
	○ 地域活性について調べ、郷原地区の魅力と課題について整理する。 ・ 「地域活性化とは、地域がそれぞれの特徴を活かし、自律的かつ持続的で魅力ある社会を作り出すこと」って書いてあるよ。 ・ 地域活性化には、地域の特徴を知ることが大切だね。郷原の魅力と課題をまとめてみよう。 ・ 人口は野路の里ができたころは増えて	4	情報収集 整理・分析 課題の設定	(2)①ア 必要な情報を取捨・選択し、筋道を立てて郷原町の課題について考えている。	国語科 「町の幸福論」 算数科 「資料の調べ方」



	いるけど、今は少しずつ減っているね。 ・ 畑などの跡継ぎが少ないのではないかな。 ○ 自分たちにできることを考える。 ・ シバザクラロードの清掃活動ができそう ・ シバザクラロードの維持管理に携わっている方に話を聞こう。 ・ 10月からならできそうだけど…	1	整理・分析	(2)②ア 郷原の町の魅力や課題を整理し、自分たちにできることを考え、自分の考えを伝えて いる。 (発言の分析)	
二次 地域の方と関わることを通して、地域活性化に関わっておられる方の思いを知ろう。	課題設定 自分たちにできることを実行することを通して、地域活性化に関わっておられる方の思いを知ろう。 ○ にんにく栽培をされている方からの依頼動画を見て、にんにく栽培への意欲をもつ。 ○ にんにく栽培の方法について学び、栽培に携わる。 ・ こんなに大変なのになぜやろうと思ったのかな。 ・ 郷原ににんにくの畑があるのを初めて知った。 ○ にんにく栽培をされている方の苦勞、工夫、栽培を始めた理由を知る。 ・ 郷原には、使っていない田畑がたくさんあるのが課題なんだね。 ○ にんにく栽培をされている方にインタビューをしたことをまとめる。 ・ 藤沖さんの思いとにんにく自体のことに分けられるね。 ○ シバザクラロードの管理に携わっておられる方の苦勞や始めた理由を聞く。 ・ シバザクラロードはぼくたちが生まれたところにつくられたんだね。 (10) ○ シバザクラロードの植え付けに携わる。 ・ 枯れているところもあるね。こんなに広い場所を管理するのは大変だね。 ○ シバザクラロードを管理されている方にインタビューをしたことをまとめる。	1 2 1 1 2 2	課題の設定 情報の収集 情報の収集 整理・分析 情報収集 情報収集 整理・分析	(3)②ア にんにくの植え付けの活動に意欲をもち、目標を決めてねばり強く取り組もうとしている。(行動観察) (2)①ア インタビューによって集めた情報を整理して、思考ツールなどを活用し、筋道を立てて情報をグルーピングしている。(発言の分析) (3)②ア シバザクラの植え付けの活動に意欲をもち、目標を決めてねばり強く取り組もうとしている。(行動の分析) (1)①ア 地域のために取り組んでい	

三次 郷原町の活性化に向けて、これから自分たちにできることを考え、その思いを広めよう。 (20)	○ 地域活性のための取組をしている方々から聞いたことを整理し、地域の方の思いを考える。(本時) 「作業したことを思い出してほしい」という思いが一緒だね。	1	整理・分析	る人々や組織の存在、その思いに気付いている。 (2)①ア 郷原のまちづくりに貢献されている方の話を聞いて分かったことを整理し、共通する思いについて考えている。	
	課題設定 郷原町の活性化に向けて、これから自分たちにできることを考えよう。				
	○ 地域の方の思いを基に「ふるさと郷原」のためにできることをグループごとに考える。 - にんにくの宣伝をしたら、みんなに知ってもらえると思うな。 - シバザクラを地域の他の場所にも植えたら、もっとシバザクラの町になりそうだね。 - 他の地域の事例を参考にしてみよう。	3	課題の設定 情報の収集	(2)②イ 集めた情報を整理して、自分の考えをまとめ、適切な方法で伝えている。	
	○ 「協働的かどうか」「持続的かどうか」という視点で自分たちが考えた取組について検討する。 シバザクラロードの管理を手伝うことは、持続的なのではないかな。	2	整理・分析	(2)①ア 必要な情報を取捨・選択したり、複数の情報について思考ツールを活用したりして、筋道を立てて考えている。	
	○ グループごとに考えたことを基にプレゼンテーションを行い、アドバイス交流を行う。	5	まとめ・表現 整理・分析	(2)②イ 集めた情報をもとに、郷原町の未来について考えを広げ、自分の目指す町の姿について適切な方法で地域の方にプレゼンテーションを行っている。(プレゼンテーションの分析)	
	○ 厳選した内容について、地域の方にプレゼンテーションを行う。 - にんにくのキャラクターづくり - シバザクラのキャラクターづくり - シバザクラの植え付け - くれワンダーランドジャーニーへの依頼	3	まとめ・表現	(1)①イ 地域の人と協働してまちづくりに参画することが、持続可能なまちづくりにつながることを理解している。 (発言の分析・振り返りの記述)	
	○ 自分たちが考えた計画を実行する。	5	まとめ・表現	(2)①ア 集めた情報を整理して、自分の考えをまとめ、適切な方法で伝えている。	
	○ 振り返る。	1	まとめ・表現	(3)②ア 「ふるさと郷原のためにできること」に向けて、自分たちが計画したことに対する目標を決めて粘り強く取組み、活動を振り返ろうとしている。	

8 本時の展開 (本時 24 / 43 時間)

(1) 本時の目標

- 郷原のまちづくりに貢献されている方（シバザクラロードの管理の者、にんにく栽培の方）の話を聞いて分かったことを整理し、共通する思いについて考えることができる。

(2) 学習の展開

記号については、以下の通りである。

指導上の留意点（◇）, 「努力を要する」状況と判断した児童への手立て（○）, 教師の発問（【意図】）, 研究に関わる手立て（□内）, 評価規準（◆）

学習過程	学習活動と児童の姿	教師の役割
課題の設定	0 シバザクラロードの管理をされている方にインタビューをして分かったことを確認する。 1 本時のめあてを確認する。 ・育てたい資質・能力を選ぶ。	◇ 前時までに分かったことを短冊に書き、交流しておく。 ◇ 前時の振り返りを読み、活動に必然性をもたせる。
	インタビューをして分かったことから、地域の方の思いを考えよう。	
整理・分析・情報の収集	2 2つのインタビュー結果を比べて、共通することがないか考える。 3 考えたことを全体で共有する。 失敗したけど研究してできるようになったことが共通すると思う。 作業したことを思い出してほしいという思いは共通すると思う。	◇ 思考ツールなどを使って、自分の考えをまとめさせる。 ○ ロイロノートで提出させ、他の人と共有できるようにする。 ○ 考えることが困難な児童には「地域の方の思い」に着目して考えさせるようにする。 ◆ まちづくりに貢献されている方の話を整理し、共通する思いについて考えることができる。 ○ 考えがもつことができていない児童は事前に把握し、話を聞くなどし、本時までに考えをまとめさせる。 ○ 考えをもちにくい児童に配慮して、グループで考える時間を設定した後、全体で交流させる。

まとめ・表現	4 地域の方の思いについて考えを深める。	地域の方が、みんなに伝えなかったことは何だろう。【広げる】 郷原のことをふるさとだと思ってほしいと思うとおられると思う。 作業に興味をもって、大人になった時思い出して、やってほしいのだと思う。 大人になったらではなく、今も地域のことに関わってほしいのだと思う。 これから私たちはどうすべきなのでしょう。【広げる】
振り返り	5 振り返りを交流し、学習のまとめをする。	手立て② 振り返りシートに評価項目を記載し、振り返りを書く際の視点になるようにする。

9 振り返り想定表

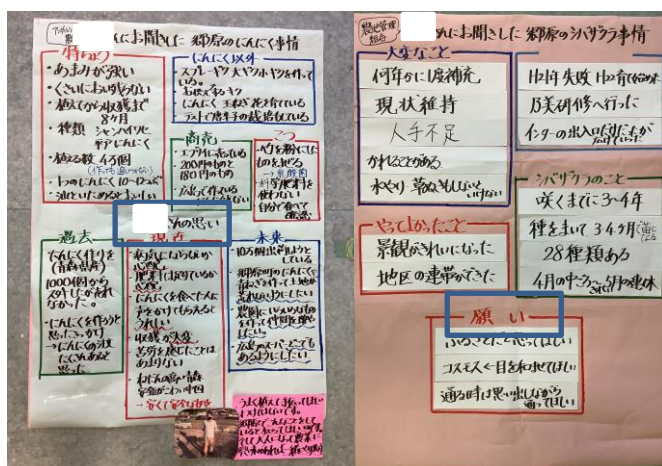
資質・能力	予想される振り返り	質の高まった振り返り例
知識・技能	にんにく栽培をされている方とシバザクラを管理されている方がおられることが分かった。	- にんにくもシバザクラも、よりよいものにするために改良をしたり、研修に行かれたりしていたことが分かった。 - 地域の方は、この地域のことを大切に思って活動されていることが分かった。
思考・判断・表現	2つのインタビューを比べて考えることができた。 - にんにくの方とシバザクラの方にインタビューしたことをまとめることができた。	2つのインタビューを比べてみて、「作業したことを思い出してほしい」という思いは同じだということに気付くことができたので、これからどんどん郷原のことに関わっていききたい。 - 郷原を有名にすることばかりを考えていたけれど、大人になったときに帰れるような場所、帰ってきたくなるような場所にしたい。そのためにも、どんどん地域のことに主体的に関わっていききたい。
主体的に学習に取り組む態度	進んで考えることができました。	- 地域の方の思いを知って、今から積極的に地域のまちづくりに参加したいと思うようになった。 - シバザクラがきれいに咲くのを維持するのは大変なので、草抜きとか植え替え作業に積極的に参加したいと思いました。

10 成果と課題

(1) 資質・能力に関わる成果と課題

○ 成果

- ・ 本単元において、郷原町の地域活性化について考える際、国語科「町の幸福論」の単元と関連させ学習を進めた。児童は、学習前には、郷原の魅力を YouTube に投稿したり、ごみを捨てないよう呼びかける看板を作ったりすればよいと考えていた。しかし、国語科の単元の学習を通し、地域活性化のためには、「協働的・継続的」に取り組むことが大切であることに気付き、町の人と一緒に街路樹を植えたり、ごみ拾いをイベントとして地域の方と一緒にしたりするなど、協働的・継続的に活動していきたいという考えに変わった。(分かる・できる イ)
- ・ 教師は学習を進めるにあたり、事前に、郷原の活性化のため、にんにく栽培に関わっておられる方とシバザクラロードに尽力されている方にインタビューをさせていただいた。その際、お二人が共通して、「ふるさとを大切に思っている」という思いをもっておられ、教師はその思いに気付かせたいと考えた。そこで、児童がお二人にインタビューをさせていただいた際、その思いを語っていただき、インタビューの内容をまとめ、分類をする活動を行った。すると、いくつかのまとまりに分類した後、全体の中で「にんにくやシバザクラに関すること」「思い、願い」に大きく分類することができた。さらに、児童は地域の方の共通する思いに気付くことができた。(分かる・できる ア)



資料1 地域の方のインタビュー内容をまとめたもの

児童の振り返りより

今日の学習とこの前の学習で、○
○さんも○○さんも、「思い出してほしい」「ふるさとだと思ってほしい」と言っていたので、これからも思い出になるような体験、ふるさとだと分かるシンボルを増やしたいと思いました。

資料2 児童の振り返り

● 課題

- ・ プレゼンテーションの作成や調べ学習の多くが、グループでの活動であったため、自分の考えをまとめ伝える際、グループの人に頼ってしまう児童が見られた。能力の差をなくすためにも、個人の活動を確保する必要があると考える。(伝える力 ア)
- ・ 「地域活性化のために何かやりたい」と主体的になっていない児童もいる。「やりたい」という思いを高めるためにも、地域の方との関わりや体験がさらに必要であると考え。(進んでやる力 ア)

(2) 研究授業に関わる成果と課題

<主体的に学習に取り組んでいたか。>

○ 成果

- ・ 地域の方お二人にインタビューを実施し、分かったことを模造紙にまとめて黒板に掲示したり、模造紙を画像にしたものをワークシートに活用したりした。黒板とワークシートがリンクしており、

児童にとってやるべきことが分かりやすかった。

- ・ 前時の振り返りでは、「二人の方のインタビューをじっくり比べることで、これからやるべきことが分かってくるかもしれない。」と書いた児童がいた。その振り返りを基に、課題意識をもって本時の導入を行うことができた。
- ・ 国語科「町の幸福論」と関連させたことで、合科的な学びができた。

●課題

- ・ 情報量が多く、何をしてよいか悩む児童もいたようである。例を示すなどし、活動の見通しをもたせる配慮が必要であった。

<対話的な学習に進んで取り組んでいたか。>

○ 成果

- ・ 体験や学びの足跡があったため、これまでの体験を基に深い共通点も見付けることができていた。
- ・ 個人で考えたことをワークシートに記入させて、写真を撮り、画像をロイロノートで共有した。友達の考えが共有できたことで、自分の考えに自信をもったり、考えを広げたりすることができた。
- ・ 児童はお二人の方のインタビューに共通することとして、「ふるさとを思い出してほしい」という思いに気付くことができた。それに対し、教師が「ふるさとしてどういうこと？」と発問したことによって、地域の方は「シバザクラを植える体験」や「にんにくを植える体験」をしたことを思い出してほしいこと、それが郷原の魅力につながっているということに気付くことができた。

●課題

- ・ 自分の考えをもつことができていない児童や、ワークシートに書いていても発言できていない児童への配慮が必要であった。
- ・ 意見交流が一部の児童に限られていた。体験活動の少なさが原因として考えられる。児童が主体的に「話し合いたい」「考えたい」と思えるような体験活動を、今後も積極的に取り入れていく必要がある。

<振り返りが本時のねらいに迫る内容になっているか。>

○ 成果

- ・ これまで「郷原のためにできることを何かやろう。」ということが主な考えであったが、前時の振り返りで「郷原を帰れる場所にしていきたい。」と書いている児童がいた。その振り返りを授業の終末で提示したことにより、「何かしてあげよう。」という考えから「今あるものを継続的にやっていきたい。」という考えに変わった児童が多くいた。

●課題

- ・ 共通点を出し合うことに時間がかかり、出し合った意見を練り合う時間が少なかった。共通点を前時までに出し合っておき、練り合う場面の検討を事前に行っておくなどの準備が必要であった。